

たかはし式三行作文術

【上級編】

説明文用テンプレート

の使い方

説明文用テンプレート【上級編】の使い方をご説明します。

1. 公式文の作成

1-1 下準備

まずは公式文を作成しましょう。

公式文というのは

「A は B である」
「なぜなら C だから」
「ということは D だよね」

という三行からなるシンプルな文章であることはすでに（論説文用テンプレートの使い方説明書の中で）説明いたしました。

しかし、説明文の場合、以下のように若干形が変わります。

「A は B である」
「詳しく言うと C である」
「ということは D だよね」

説明文の場合、論拠を示すよりも詳細を説明したり、描写したりするのが主眼になるからです。

以下、この変形公式にもとづくテンプレートの使い方をご説明します。

1-2 主題の入力

はじめに主題を入力します。主題というのは、これから説明しようとする対象です。「～について説明します」の「～」に当たる部分です。ここではそれを入力します。

第一ステップ 問いと答えを明確にして公式文を作成しよう！

▼作文公式

1行目 A: 説明したい主題はなんですか？

主題を簡潔に記入します。例：喜多方ラーメン

は
← 主題を入力します

B: それを総論的に説明するとどういう答えになりますか？

答えを簡潔に記入します。例：福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

である

2行目 C: もう少し詳しくいうと？

詳細を簡潔に記入します。例：スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。

である

3行目 D: まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよね

例文でいえば

喜多方ラーメン（について）

です。

1-3 答えの入力

次は答えの入力です。

第一ステップ 問いと答えを明確にして公式文を作成しよう！

▼作文公式

1行目 A:説明したい主題はなんですか？
主題を簡潔に記入します。例：喜多方ラーメン

は

B:それを総論的に説明するとどういう答えになりますか？
答えを簡潔に記入します。例：福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

である

← 答えを入力します

2行目 C:もう少し詳しくいうと？
詳細を簡潔に記入します。例：スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」とある
呼ばれ、食感は柔らかい。

3行目 D:まとめると？
まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：美味しいから一度食べてみてくださいね

ここでは問い合わせに対する総論的、概略的な説明が答えになります。それを入力してください。

例文でいえば

福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

です。

ここでは抽象的な言葉でかまいませんので、できるだけひととで言い切るようにしてください。そうでないと、あとで文章をつなぐのが難しくなります。

どうしてもひととでいえない場合、「それは次のようなものである」などとつなぎの言葉を入力してください。

1-4 詳細の入力

次は詳細です。

第一ステップ 問いと答えを明確にして公式文を作成しよう！

▼作文公式

1行目 A:説明したい主題はなんですか？
主題を簡潔に記入します。例：喜多方ラーメン

は

B:それを総論的に説明するとどういう答えになりますか？
答えを簡潔に記入します。例：福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

である

2行目 C:もう少し詳しくいうと？
詳細を簡潔に記入します。例：スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。

である

3行目 D:まとめると？
まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよね

詳細を入力します

前段階では総論的、抽象的な言葉で簡潔に全体像を説明しました。しかし当然ながら、それだけでは十分な説明にはなりません。

ここでは「もっと詳しく言うと？」という観点からその詳細を記入します。ただし、ここでもできるだけ簡潔な表現をこころがけてください。

例文では

スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。
とその特徴をより詳細に説明しています。

また説明することが多岐にわたる場合、すべてをここに入力するのは現実的ではありませんので、要点を箇条書きにし、それを列挙するとよいでしょう。

入力しきれなかったものは別途メモに残しておくことをオススメします。あとで文章を膨らませる際の参考になるはずです。

1-5 まとめの入力

次はまとめを入力します。

ここでは「主題」→「答え」→「詳細」というそれまでの流れを受けて、「ということは～」もしくは「だから～」という形でまとめとなる文を入力してください。

第一ステップ 問いと答えを明確にして公式文を作成しよう！

▼作文公式

1行目 A: 説明したい主題はなんですか？

主題を簡潔に記入します。例：喜多方ラーメン

B: それを総論的に説明するとどういう答えになりますか？

答えを簡潔に記入します。例：福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

2行目 C: もう少し詳しくいうと？

詳細を簡潔に記入します。例：スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれ、食感は柔らかい。

3行目 D: まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよね

まとめを入力します

まとめに入る内容としては、一般に「結論の再確認」「課題の明確化」「メリットの提示」「補足」「感想」「行動促進」「願望」などがあります。

例文では

美味しいから一度食べてみることをお奨めする

とそのメリットを提示するとともに読者の行動を促す内容になっています。

以上で公式文は完成です。

2. 公式文の変形

2-1 主題

次に公式文を少し変形させます。まずは主題ですが、ここは「～って知ってる？」という形になります。ただし、中に入る内容は基本的に変わりませんので、第一ステップで入力した主題をそのまま入力してください。

第二ステップ 公式文を変形しよう

▼ 変形公式文

主題

(第一ステップの「主題」=Aをそのまま入力します) 例:喜多方ラーメン



って知ってる?

問い合わせ

それはどういうもの?

概要

それは

(第一ステップの「答え」=Bをそのまま入力します) 例:福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

である

詳細

それは

(第一ステップの「もう少し詳しく」=Cを膨らませて入力します) 例:スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本だが、塩味や味噌仕立てなど千差万別。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれる一般的のものより水分が多く含んだ麺で独特の縮れがあり、食感は柔らかい。昭和初期に中国出身の青年が屋台で「支那そば」

である

解説

その意味するところは

(それはどういう意味を持つのか? 何ができるのか? 何をもたらすのか等を記入します) 例:喜多方は、食による町おこしの成功例のひとつである。※ここは空欄でもかまいません

である

まとめ

ということは

(第一ステップの「まとめると」=Dをそのまま入力します) 例:美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよね

2-2 問い

ここは何もいじる必要はありません。説明文の場合、「それはどういうもの？」という問い合わせ以外、ありえないからです。

第二ステップ 公式文を変形しよう

▼ 変形公式文

主題 (第一ステップの「主題」=Aをそのまま入力します) 例:喜多方ラーメン

って知ってる?

問い合わせ それはどういうもの?



概要 それは

(第一ステップの「答え」=Bをそのまま入力します) 例:福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

である

詳細 それは

(第一ステップの「もう少し詳しく」=Cを膨らませて入力します) 例:スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本だが、塩味や味噌仕立てなど千差万別。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれる一般的のものより水分を多く含んだ麺で独特の縮れがあり、食感は柔らかい。昭和初期に中国出身の青年が屋台で「支那そば」

である

解題 その意味するところは

(それはどういう意味を持つのか? 何ができるのか? 何をもたらすのか等を記入します) 例:喜多方は、食による町おこしの成功例のひとつである。※ここは空欄でもかまいません

である

まとめ ということは

(第一ステップの「まとめると」=Dをそのまま入力します) 例:美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよね

2-3 概要

第一ステップの「答え」をそのまま入力します。必要に応じて肉付けしてください。

第二ステップ 公式文を変形しよう

▼ 変形公式文

主題 (第一ステップの「主題」=Aをそのまま入力します) 例: 喜多方ラーメン

って知ってる?

問い合わせ それはどういうもの?

概要 それは

(第一ステップの「答え」=Bをそのまま入力します) 例: 福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

である

詳細 それは

(第一ステップの「もう少し詳しく」=Cを膨らませて入力します) 例: スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本だが、塩味や味噌仕立てなど千差万別。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれる一般的のものより水分を多く含んだ麺で独特の縮れがあり、食感は柔らかい。昭和初期に中国出身の青年が屋台で「支那そば」



である

解説 その意味するところは

(それはどういう意味を持つのか? 何ができるのか? 何をもたらすのか等を記入します) 例: 喜多方は、食による町おこしの成功例のひとつである。※ここは空欄でもかまいません

である

まとめ ということは

(第一ステップの「まとめると」=Dをそのまま入力します) 例: 美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよね

2-4 詳細

第一ステップの「詳細」をそのまま記入します。必要に応じて肉付けしてください。

第二ステップ 公式文を変形しよう

▼ 変形公式文

主題 (第一ステップの「主題」=Aをそのまま入力します) 例: 喜多方ラーメン

って知ってる?

問い合わせ それはどういうもの?

概要 それは

(第一ステップの「答え」=Bをそのまま入力します) 例: 福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

である

詳細 それは

(第一ステップの「もう少し詳しく」=Cを膨らませて入力します) 例: スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本だが、塩味や味噌仕立てなど千差万別。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれる一般のものより水分を多く含んだ麺で独特の縮れがあり、食感は柔らかい。昭和初期に中国出身の青年が屋台で「支那そば」



である

解題 その意味するところは

(それはどういう意味を持つのか? 何ができるのか? 何をもたらすのか等を記入します) 例: 喜多方は、食による町おこしの成功例のひとつである。※ここは空欄でもかまいません

である

まとめ ということは

(第一ステップの「まとめると」=Dをそのまま入力します) 例: 美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよね

2-5 解題

ここでは別の視点からの説明を入力します。それはどういう意味を持つのか? 何ができるのか? 何をもたらすのか? どんな問題があるのか? など別の側面を挙げてみてください。具体的な例を出し

たり、予想される反論に反論したりするのもよいでしょう。をただし、必要がなければここは空欄のままでかまいません。

※いわゆる起承転結でいえば、ここは転に当たる部分になります。ここがあることで論理の平板さが避けられ、文章に奥行きが生まれます。

第二ステップ 公式文を変形しよう

▼ 変形公式文

主題

(第一ステップの「主題」=Aをそのまま入力します) 例: 喜多方ラーメン

って知ってる?

問い合わせ

それはどういうもの?

概要

それは

(第一ステップの「答え」=Bをそのまま入力します) 例: 福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

である

詳細

それは

(第一ステップの「もう少し詳しく」=Cを膨らませて入力します) 例: スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本だが、塩味や味噌仕立てなど千差万別。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれる一般的のものより水分が多く含んだ麺で独特の韌があり、食感は柔らかい。昭和初期に中国出身の青年が屋台で「支那そば」

である

解説

その意味するところは

(それはどういう意味を持つのか? 何ができるのか? 何をもたらすのか等を記入します) 例: 喜多方は、食による町おこしの成功例のひとつである。※ここは空欄でもかまいません



である

まとめ

ということは

(第一ステップの「まとめると」=Dをそのまま入力します) 例: 美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよね

2-6 まとめ

第一ステップの「まとめると」をそのまま入力します。

第二ステップ 公式文を変形しよう

▼ 変形公式文

主題 (第一ステップの「主題」=Aをそのまま入力します) 例: 喜多方ラーメン

って知ってる?

問い合わせ それはどういうもの?

概要 それは

(第一ステップの「答え」=Bをそのまま入力します) 例: 福島県喜多方市発祥のご当地ラーメン

である

詳細 それは

(第一ステップの「もう少し詳しく」=Cを膨らませて入力します) 例: スープは、しょうゆ味の豚骨スープが基本だが、塩味や味噌仕立てなど千差万別。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれる一般のものより水分を多く含んだ麺で独特の縮れがあり、食感は柔らかい。昭和初期に中国出身の青年が屋台で「支那そば」

である

解説 その意味するところは

(それはどういう意味を持つのか? 何ができるのか? 何をもたらすのか等を記入します) 例: 喜多方は、食による町おこしの成功例のひとつである。※ここは空欄でもかまいません

である

まとめ ということは

(第一ステップの「まとめると」=Dをそのまま入力します) 例: 美味しいから一度食べてみることをお奨めする。

だよね



3. アウトラインを作成する

3-1 アウトラインの書き出し

次はいよいよアウトラインの作成です。

といつてもここはそう難しいものではありません。基本的には前のステップで入力したものをそのまま、もしくは若干肉付けして再入力するだけだからです。

ただし、ここには若干のコツがあります。それは

- 主語と述語を明確にすること
- 一文一意とすること

です。

またその際、修飾語など枝葉の部分はなるべく削ぎ落とした上で「AはBである」という形のシンプルな文にするよう心がけてください。

こうすることで文の骨格が安定します。骨格が安定すればあとで肉付けする際、枝葉となる語句を付け加えてもねじれのないわかりやすい文に仕上げることができます

なお前のステップで入力したものは自動的に反映されません。お手数ですが、コピー＆ペーストなどでご対応いただければと思います。

さて指示通りに入力したら最後に「アウトラインを書き出す」を押してください。

第三ステップ アウトラインを作成しよう

▼主題

主題

(第二ステップの「主題」をもとに肉付けします) 例:喜多方ラーメンについて

▼描写

概要

(第二ステップの「描写/概要」をもとに肉付けします) 例:喜多方ラーメンというの、福島県喜多方市発祥のご当地ラーメンです。

詳細

ようゆ味の豚骨スープが基本ですが、塩味や味噌仕立てなど千差万別です。麺は、「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれる一般的のものより水分を多く含んだ麺で独特の縮れがあり、食感は柔らかめです。昭和初期に中国出身の青年が屋台で「支那そば」を売り歩いたのがはじまりといいます。

▼解題とまとめ

解題

(第二ステップの「解題」をもとに肉付けします) 例:ちなみに喜多方は、食による町おこしの成功例としても有名です。

まとめ

(第二ステップの「まとめ」をもとに肉付けします) 例:美味しいので一度食べてみることをお奨めします。

アウトラインを書き出す



そうするとアウトラインが表示されます。

これでいったん作業は完了です。

お疲れ様でした。

3-2 肉付けする

ここであらためてアウトラインを読んでみてください。

いかがでしょうか？

ぶつきりで表現もこなれないかもしれません、いわんとすることの6割～8割は伝わる文章になっているのではないですか？

あとはそれを10割に近づけるだけです。そしてそのための作業が「肉付け」になります。

肉付けというのは、言葉を補つたり、別の言葉に変えたりして表現をブラッシュアップすることです。

どう肉付けするかは自由です。よりわかりやすい表現になるよう各自工夫しながら推敲を重ねてみてください。

なおはここでは具体的な肉付け方法については触れません。文章の表現力を高めるノウハウ本はすでに数え切れないほど出版されていますし、ネット上にも同様のサイトがたくさんあるからです。

※正直いうと、表現力に関しては私もあり自信がありません。少なくとも皆さんに教えられるほどの表現力は持ち合わせておりません。恐縮ではございますが、表現力を高める方法については出版物やネット上のサイトなどに当たっていただければと思います。なお巻末にオススメの参考書を紹介しましたので、そちらもご参照ください。

代わりに、ここでは肉付けする際のヒントだけ記しておきます。

肉付けの方法には大きく分けて次の二通りがあります。

1、表現を膨らませる

言葉を補い、よりわかりやすい表現に直します。とくに意味が伝わりにくかったり、誤解を招くような部分は言葉を尽くしてきちんと説明します。

ただし文章はシンプルイズベストです。表現を手直しした結果、かえって短い文になったとしても簡潔にしてわかりやすいのであれば、それがベストです。無理に膨らませる必要はありません。

2、情報を追加する

肉付けする一番簡単な方法は情報を追加することです。それらを必要に応じて追加してください。ただいまでもありませんが、追加する情報は論旨に沿ったものでなくてはなりません。たんに字数を膨らませる目的で無関係な情報を混ぜ込んでしまっては、論旨がわかりにくくなってしまいます。

また論旨に沿った情報であれば、それにふさわしい場所が必ずあるはずです。全体の論旨と前後の流れを確認しながら、ふさわしい箇所に追加してください。逆にふさわしい場所が見つからないのは、それが不要な情報である証拠です。そのような情報を無理に入れ込む必要はありません。

